

# International comparative research on the local identity for the history of physical education and sport

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Okubo, Hideaki メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00034778">https://doi.org/10.24517/00034778</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



体育・スポーツ史における  
ローカル・アイデンティティー国際比較研究

(課題番号：13680017)

平成13年度～平成15年度文部科学省科学研究費補助金

(基盤研究(C)(2))

研究成果報告書

平成16年3月

研究代表者

大久保英哲

(文学部教授)

金沢大学附属図書館



0400-05011-0

体育・スポーツ史における  
ローカル・アイデンティティー  
国際比較研究

(課題番号:13680017)

平成 13 年度 ～ 平成 15 年度文部科学省科学研究補助金(基盤研究C(2))  
研究成果報告書

平成 16(2004)年 3 月

研究代表者 大久保英哲(金沢大学教育学部教授)

## 文部科学省科学研究補助金研究報告書

- 1.研究機関番号 13301  
 2.研究機関名 金沢大学  
 3.研究種目名 基盤研究 C(2)  
 4.研究期間 平成 13 年度 - 平成 15 年度  
 5.課題番号 13680017  
 6.研究課題名

体育・スポーツ史におけるローカル・アイデンティティー国際比較研究

- 7.研究代表者 大久保英哲(研究者番号 30194103)

- 8.交付金額

	直接経費(千円)	間接経費(千円)
平成13年度	1,400	0
平成14年度	500	0
平成15年度	500	0
合計	2,400	0

- 9.研究成果

○学会発表等

- 1)金沢市史「学芸」発刊記念フォーラム,「天下の書府・金沢を語る」シンポジスト, 2002(平成 14)年 2 月 16 日, 金沢市文化ホール
- 2)OKUBO Hideaki, A comparative study of the introduction and diffusion process of the physical education systems in Ishikawa and Iwate Prefectures in the Meiji Era, 1860-1890. 6<sup>th</sup> ISHPES Seminar Kanazawa, Keynote lecture, 2002.7.9
- 3)大久保英哲, 第四高等学校における柔道部活動, 旧制高等学校研究会, 2002, 松本市旧制高等学校記念館招待講演, 2002 年 8 月 4 日
- 4)OKUBO Hideaki, Local Identity of Physical Education and Sport History in Japan 2002 Busan Asian games Sport Science Congress, 2002.9.24-26
- 5)OKUBO Hideaki, University Reform and Sport in Japan, 韓国体育史学会 2002, 2002.9.27
- 6)大久保英哲, 新制国立大学教育学部創設の地方的意義, 全国地方教育史学会第 26 回大会シンポジスト, 金沢市, 2003 年 5 月 31 日-6 月 1 日
- 7)大久保英哲, 旧制高等学校のスポーツ活動, 井上靖在籍当時の四高柔道部, 日本体育学会第 54 回大会, 熊本大学, 2003 年 9 月 26 日
- 8)大久保英哲, 講義ノートから見る 1871-79 年当時の金沢医学館における近代体育指導, On the physical education at the Kanazawa Medical school, 1871-79, 第 5 回東北アジア体育スポーツ史学術検討学会, 2003 年 12 月 19-22 日, 台湾

9) 大久保英哲, 日本における大学改革とスポーツ, *University Reform and Sport in Japan*, 台湾日本韓国体育学術検討会招待講演, 台南師範大学, 2003年12月17日(同題目にて国立台湾師範大学にて招待講演 2003年12月23日)

#### ○著書

- 1) 大久保英哲(共著), 金沢市史, 資料編15, 学芸, 平成13(2001)年3月, 全73頁担当
- 2) OKUBO Hideaki (ed.), *Local Identity and Sport*, ISHPES Studies, 11, Academia Verlag (Sankt Augustin, Germany), 2004, 全456頁

#### ○論文

- 1) 大久保英哲・谷本宗生, 昭和二十一年『石川師範学校調査報告』(その3)―戦後の石川師範学校―, 金沢大学教育学部紀要, 人文科学編, 第51号, 2002年, 1—10頁
- 2) 大久保英哲, 昭和初期金沢市の体育設備充実施策, 金沢市史編さん紀要, 第8号, 2002年, 83-99頁
- 3) 大久保英哲, 明治24年石川県教育者大集会における「体操廃止論議」, 清水重勇先生退官記念論集「体育・スポーツ史研究への問いかけ」, 2001年, 101-108頁
- 4) OKUBO Hideaki, *Local Identity of Physical Education and Sport History in Japan*, 2002 Busan Asian games Sport Science Congress, 2002, pp.1-8
- 5) OKUBO Hideaki, *University Reform and Sport in Japan*, 韓国体育史学会紀要第2号, 2002, pp.2-8
- 6) OKUBO Hideaki, *Der Einfluss der franzoesischen Leibeserziehung bei der Errichtung des Leibeserziehungssystems im Japan*, 6th Congress of the International Society for the History of Physical education and Sport, Budapest, 2002, pp.501-503
- 7) 大久保英哲, ふるさと石川歴史館・現代14, 北国新聞社, 2002年, 476-477頁
- 8) 大久保英哲(共著), マッカーサー元帥杯競技大会の成立・廃止過程, 金沢大学教育学部研究紀要・教育科学編, 第53号, 2004年, 89-100頁
- 9) 大久保英哲, 新制国立大学教育学部創設の地方的意義, 金沢大学の場合, 地方教育史研究, (印刷中)

## 体育・スポーツ史におけるローカル・アイデンティティー国際比較研究 大久保英哲

### 1. 研究の目的

現在の日本では伝統的文化共同体としての民族国家から個と個の契約的共同体に基づく近代国民国家への移行期であるとする日本近代史の捉え方を根拠に、昨今の歴史学の動向、すなわち、国家に収斂されないさまざまな広がりを持った地域や集団の錯綜する「場」であったことを明らかにして、国家の人為性・作為性・暴力性を暴き立てるやや短絡的な議論に類する研究が盛行している。

だが一方で「国民国家世界システム」そのものの相対化の必要性、一國史がそもそも成り立たない理由の追求、の中で「国民国家を相対化する」視点も必要であろう。本研究者はこれまで、近代日本体育史のなかで、地方が基本的に中央の政策を受けとめる立場にありながら、その対応は決して一律ではなく、地方の歴史、社会、経済的条件に規定された多様な変容が見られることを指摘し、体育・スポーツ史における地方のアイデンティティー（ローカル・アイデンティティー）を明らかにする研究の重要性と必要性を指摘してきた（拙著、明治期比較地方体育史研究、不昧堂、1998）。

今、世界史的に見ても体育・スポーツとローカリズムの歴史の多元的アイデンティティーに注目することが重視されてきている。例えば、集団の社会的、文化的、経済的統合あるいは分極化の問題、居住区、地域、土着の文化、伝統、国民国家とスポーツ、ヨーロッパとアジア、あるいはそれ以外の地域間の比較検討、グローバリズムとの対話を広げる文化的位相を問題にし、周縁と中心の間の複雑な社会ダイナミズムと多元的関係をスポーツの歴史を通じて明らかにすることが各国の研究者の共通関心となりつつある。これらは具体的には、場所（「場」）の概念化の問題として表れ、制度的、政治的、心理的、経済的に定義されるローカルな差異と地域的（かつ国家的）アイデンティティーとの間に存在する緊張関係、階級、人種、民族関係、ジェンダー的偏見が、いかに空間、境界、ローカル性といった認識を浸透させるか、市民的伝統、公的プライド、場所を祝う発想の源泉について議論が展開されつつある。その結果、ローカルな特色の変化に際し、アイデンティティーを有するさまざまな境界が演じる役割などについての研究テーマが生まれ始めている。とくにスポーツは、ある集団や集合体に帰属しているという個人のアイデンティティーを強化することにそもそも深く関与してきたために、居住区や村、町、都市、県（州）あるいは、階級、人種、国家という枠組みを語る場合にも有効な分析概念となる。

さらに、上に述べたようなヨーロッパ的現状からの発想に加え、アジア的なローカル・アイデンティティーの問題（征服、植民、など・・・）を加える必要性、さらには多元化した多民族アメリカ社会やその他の大陸の問題を含めた多様な問題も考慮する必要性がある。

このような体育・スポーツ史の国際的な研究動向からして、わが国においても体育・スポーツ史におけるローカルアイデンティティーの国際比較研究は不可欠であり、早急にその研究枠組みを明確にする必要性がある。

## 2. 年次研究計画

本研究では、3年間の研究期間を通じて次の事柄を明らかにしていきたい。

(1) 先行しているイギリスやアメリカの体育スポーツ史におけるローカル・アイデンティティー研究の資料収集を行い、現状と問題点、特徴と課題を明らかにする。

(2) アジア諸国(韓国・中国ほか)における体育・スポーツ史におけるローカル・アイデンティティー研究の現状と問題点、特徴と課題を明らかにする。

(3) わが国における体育スポーツ史におけるローカル・アイデンティティー研究の現状と問題点、特徴と課題を明らかにし、上記の国際比較を行うなかで、わが国の立場からの体育・スポーツ史におけるローカル・アイデンティティー研究の方向性を具体的に提案する。

## 3. 研究の経過

### (1) 2001(平成13)年度

2001(平成13)年度は体育・スポーツ史におけるローカル・アイデンティティー研究に関する基本文献の収集と各国地域における研究の現状や課題について情報を収集した。

ことに2001年7月にフランス、モンペリエで開催された国際体育・スポーツ史学会において、英国(R.Cox氏)、ドイツ(G.Pfister氏)、仏(T.Terret氏)の研究者らとヨーロッパ・アメリカの体育・スポーツ史におけるローカル・アイデンティティー研究に関する研究成果と問題点について議論をかわすなかで、情報を収集し、かつ意見交換をおこなった。この結果、各国地域でのローカル・アイデンティティーの概念、とりわけローカルの意味に差異が見られることが明らかになった。

また2001年8月に中国で開催されたアジア体育・スポーツ史学会において中国(熊曉正)、台湾(蔡禎雄)、韓国(羅永一)氏らの研究者とアジア各国の体育・スポーツ史におけるローカル・アイデンティティー研究に関する情報を収集し、かつ意見交換をおこなった。この結果、日本を除いたアジア諸国ではローカル・アイデンティティーの概念が希薄で、ほとんど研究がされていないこと、仮にあったとしてもナショナル・アイデンティティーを明らかにする研究の下位概念として低い評価の中に位置付けられていることが明らかとなった。

さらに2001年12月台湾師範大学において招待講演を依頼された機会に、日本における体育・スポーツ史におけるローカル・アイデンティティー研究の現状と課題についての連続講演を行った。

また2002年7月に開催される国際体育・スポーツ史学会金沢セミナーに向けて、体育・スポーツ史におけるローカル・アイデンティティーに関するシンポジウムを企画することとし、その内容やシンポジストについて、同大会組織委員会との企画調整を行った。

### (2) 2002(平成14)年度

2002(平成14)年度は体育・スポーツ史におけるローカル・アイデンティティー研究に関する研究情報

の交換並びにシンポジウム、国際学会等を開催した。

2002年7月に金沢市で第6回国際体育・スポーツ史学会金沢セミナーを開催した。これには国内から120名、国外から18ヶ国70名の参加者があり、「ローカルアイデンティティーとスポーツ」をテーマに、約70題の発表と、キーノートレクチャー、ラウンドテーブルワークショップを行った。

この結果、各国地域でのローカル・アイデンティティーの概念が多様であること、しかしながらそれらは各国地域のスポーツ史研究に重要な多様性であることが確認された。この学会開催を通じて特に中国・台湾・韓国・ネパールなどアジア諸国から約50名に及ぶ初の参加者がみられ、活発な意見交換が行われたことが大きな成果となった。

2002年9月に韓国プサンで開催されたアジア大会スポーツ科学者会義、および韓国体育スポーツ史学会において招待講演を行い、日本の体育・スポーツ史におけるローカル・アイデンティティー研究情報を提供するとともに、その研究の必要性について意見交換をおこなった。日本を除いたアジア諸国ではローカル・アイデンティティーの概念が希薄で、ほとんど研究がされていないこと、仮にあったとしてもナショナル・アイデンティティーを明らかにする研究の下位概念として不当に低く位置付けられていることの問題点を明らかにしてきた。

2003年2月、台湾師範大学から2名、ソウル大学1名、漢陽大学から1名の体育史研究が金沢大学を訪問し、又国内からの参加者も加えてアジアにおける体育・スポーツ史におけるローカル・アイデンティティー研究を促進するためのシンポジウムを行った。

国際体育・スポーツ史学会金沢セミナー報告書の作成に関する企画・編集作業をうとともに、2003年7月にUrbino(イタリア)で開催される国際体育・スポーツ史学会においてこれまでの成果をまとめて公表するとともに、今後のさらなる研究継続について関係者と協議を行う準備活動を展開した。

2003年8月に台南(台湾)で開催される東北アジア体育・スポーツ史学会においてこれまでの成果をまとめて公表するとともに、ことに東北アジアにおける今後の研究継続について関係者と協議を行う準備活動を展開した。

地方教育史学会(2003年5月)、日本体育学会(2003年9月)、体育史専門分科会(2003年9月)、スポーツ史学会(2003年12月)、など国内外の関連学会を捉えて、積極的な体育・スポーツ史におけるローカル・アイデンティティーに関する研究成果を公表するとともに、今後のさらなる研究継続について関係者と協議を行った。

### (3) 2003(平成15)年度

2003年(平成15)度は、「Sport and Local identity」をドイツアカデミア出版社からISHPES Studies 11号として刊行するために、編集、校正作業を行った。

2003年7月にUrbino(イタリア)で開催された国際体育・スポーツ史学会には、SARS流行のため、参加を取りやめた。2003年12月に台湾台南市で開催された東北アジア体育・スポーツ史学会で、発表、



座長を務めるとともに、台南師範大学、台湾師範大学(台北)で体育・スポーツ史におけるローカル・アイデンティティ研究の意義と方法に関する講演を行い、日本の体育・スポーツ史におけるローカル・アイデンティティ研究情報を提供するとともに、台湾に於ける同様な視点からの研究促進について意見交換をおこなった。

第18回全国地方教育史学会(2003年5月、金沢)において、シンポジウムのパネリストを務め、体育・スポーツ史におけるローカル・アイデンティティ研究の意義と方法をふまえた教育史研究への提案を行った。

## 本報告書の内容

### 1. 研究申請概要

### 2. 研究経過報告

### 3. 研究成果

#### (1) Report papers on the Local Identity and Sport:

2002 International society for the History of Physical education and sport at the Kanazawa seminar .....10

(2) Book Review (North American Society for Sport History, Journal of Sport History, Vol.29, No.3, pp.507-509, 2002)

.....11

(3) Der Einfluß der französischen Leibeserziehung bei der Errichtung des Leibeserziehungssystems im Japan der Moderne .....445

(4) Sport activities in the old Japanese high school system; Judo club life in 1927-28 from a practice diary of the 4th Kanazawa High School

.....452

(5) University Reform and Sport in Japan .....453

(6) The Japanese Sport History of Modern Times: Shift from state centered history of physical education and sports history in Japan

.....461

Book Review (North American Society for Sport History, Journal of Sport History, Vol.29, No.3, pp.507-509, 2002)

OKUBO Hideaki

Allen Guttmann and Lee Thompson. Japanese Sports: A History, University of Hawai'i Press, Honolulu, 2001. Pp. ix +307, illustrated. Notes, bibliography, index

This is one of the first comprehensive histories of sports in Japan published in English, or even in Japanese. Topics covered range from the medieval ball game *kemari* and traditional sports such as the martial arts and sumo, up to new sports such as gateball and "soft tennis," and women's sports. Allen Guttmann and Lee Thompson are well versed in the sports and culture of Japan, and have made good use of materials from a number of excellent sources in a wide variety of fields. This book could only have been written by authors such as these.

Using the two key concepts of tradition and modernization, the authors seek to describe the characteristics of Japanese society and culture through the history of sports. Sumo, for example, is a traditional sport observing ancient manners and costumes based on Shinto ceremonies from the eleventh century, while players of the most modern sport of baseball chew gum in the style of the American major leagues and the umpires show their decisions with exaggerated gestures. Both sports are held simultaneously at modern indoor stadiums only a few miles apart, and are widely popular; the results of the matches and games are unfailingly reported on the regular news broadcasts of the public television station. Foreign visitors are apparently surprised that Japan does not experience cultural schizophrenia.

Foreign scholars have heretofore proposed a variety of conceptual apparatuses for understanding Japanese culture. The best known is probably that proposed by Ruth Benedict in *The Chrysanthemum and the Sword*, that of Japan as a cooperative, group-oriented culture, and symbolized by the phrase "culture of shame." In this view, the group-oriented behavioral norms of the samurai have survived into the modern era. The samurai are thought to have valued above all the honor and preservation of the group to which they belonged, be it family (*ie*) or clan; in the modern era, those loyalties were redirected toward the company or other organization. These behavioral norms of the Japanese are said to be completely different from the individualistic culture of the West.

Benedict wrote during the cold war, and some parts of her work are difficult to accept for their

ethnocentrism and methodology, but it cannot be denied that her ideas are useful for understanding Japanese culture. The work of Robert Whiting takes a similar approach in that he attempts to interpret baseball as it is played in Japan based on the culture and spiritual norms of the samurai. In *Baseball and yakyūdo* Whiting writes that baseball in Japan is played with the samurai spirit, and this makes it something different from the original form of baseball.

Allen Guttmann and Lee Thompson have successfully and convincingly gone beyond this somewhat simplistic approach that seeks to understand Japanese sports and culture mainly from the point of view of the samurai spirit. In their analysis of the traditional and the new in Japanese sports, they, like Robert Bellah in *Tokugawa Religion* (1957) and Ruth Benedict, place importance on the individual mentality. However, they also make use of the cultural theory of Norbert Elias and Pierre Bourdieu's concept of habitus to describe how the sports mentality was formed in the collision of various elements within social and historical structures, sports in Japan being the product of those interactions. This parallels the emergence of conflicting feelings of love and hate towards things traditional and the new aspects of the modernization that took place as the country was forcibly Westernized following the arrival of Admiral Perry's "black ships" in 1853, which shook the country out of peaceful isolation of the Tokugawa period. This point has been made before in the field of Japanese history, but this is its first appearance in the history of sports in Japan.

From this perspective Guttmann and Thompson use the pivotal events of the arrival of the black ships (1853) and the end of the war in Asia and the Pacific (1945) to divide the work into three periods. Japan's traditional sports were formed before the arrival of the black ships, and the history of the development of sumo, kemari, the martial arts, *chikaraishi* and other sports is related in Part 1. Part 2 tells the story of the events that followed the black ships, describing the processes of modernization that took place amidst the love-hate relationship with America and Europe. Topics discussed here include the modernizing transformations of the traditional sports described in Part 1, the introduction and acceptance of Western sports, the flourishing of sports during Taisho democracy and under fascism, physical education in the schools, amateur sports, and the introduction of professional sports. Part 3 takes up the history of sports in Japan following the end of the war. This section includes a wide variety of topics, including postwar reforms, Olympic participation, the ups and downs of various new sports, the slashing of company sports in response to recession, retraditionalization (created traditionalism) in sumo, and other recent trends.

Except for certain sections on sumo, this is not a product of original, primary research, but it is an academic work with detailed notes and bibliography, and plentiful illustrations, graphs, tables, and statistics. Since it is also a comprehensive survey of Japan's culture and sports, I have been using it in my course in sports history at Kanazawa University from the fall of 2001. It is an excellent treatise on Japanese society and culture as well as sports history, and will be required reading for scholars of Japanese culture the world over.

I would also like to add that Allen Guttmann received the International Society for the History of Physical Education and Sport Award at the ISHPES Kanazawa seminar, held in Kanazawa, Japan, in July 2002.